

所報 龍潭



第7号 昭和53年3月 / 目次

子供の目……………	1
所員研究例(体操療法に関する一考察)…	2
研究例(中)……………	4
研修雑感……………	7
教育センター便り	
長期研修員と研究テーマ……………	9
全国教育研究協議会を終えて……	12
図書資料紹介……………	13
紀要 資料について……………	14
職員の動き……………	15



子供の目

理科研修課長

安座間 喜勝

子供は風の子、太陽の子だ。子供達は青空の下、自由にのびのびと野山をかけまわり、周辺の動・植物に目を向ける。その目は純真で観察は鋭い。自分なりの発見をし、それを解決しようとする。小学生(低学年)の作品からいくつかを紹介してみよう。(なお、原文のままでは読みにくいので、適当に漢字などまぜて手直ししてある。)

1年生「かまきりは7回脱皮して大人になることが分りました。すず虫も脱皮して大人になります。」「せみは土の中から出てきて、木に登ってせみになりました。」「ヨコバイは昆虫の中で、一番せみに似ていると思います。それに、ヨコバイはとてもせみと関係があります。」「ぎんねむの実の中のたねは、ネッスレスみたいに、きれいに並んでいます。」「にんにくは匂いをしたら、なんで涙が出るんですか。そこで図鑑をみて調べましたが、漢字が分からないので分らなかった。』

2年生「黒大ありは大きいので、小さい赤ありをかみ殺すだろうと思っていたが、大きい赤ありが逃げている。不思議に思って虫メガネで見たら、大ありの前足に小さい赤ありが、かみついていた。」「こおろぎのおすは、互いにはねを立てて、おれが強いんだぞと大きな声で鳴きます。』

3年生「くろきの葉にぶつぶつができるのは何故だろう?お父さんに聞いても分らない、先生に聞いたら農事試験場の小父さん達だったら分るかも、と云われたのでそこまで行き……」それがヒゲブトガリキジラミのせいだと分り、その駆除法まで教わって報告している。

或る母親の話「うちの子は、とても虫が好きでいろいろな虫を採ってきたり、飼ったりしていますが、先日、生徒科学展を見てきて興奮した声でこんな話をしたのですよ。……お母ちゃん!ぼくが飼っていたクワガタね、大きいのが小さいのの背中に乗っていたので、けんかしていると思ってひきはなしたけど、あれはけんかじゃなくて結婚しているんだって! かわいそうなことしたね。この次は、ちゃんと結婚させてやろう!……ですって。きっと、科学展の作品の中で、そのような解説のあったのを見たのでしょうね。そりやもう、とってもうれいそうでした。』

子供たちは、いっばしの科学者きどりで大人顔負けの観察や実験をやっている。大人の立場で子供の自由をあれこれ束縛することはやめて、子供をもっと自由に大らかに野に解放してやろう。文部省顧問の天城勲先生の言を借りれば、「子供を自然に放牧しよう」ということである。子供を自然に放牧した場合、子供は何を発見し、何に驚き、何につまずくか。自然は温かい、恵みのある反面、こわい、苦しい一面もあることを悟るだろう。ハチに追われ、毛虫にさされても、なお且つ子供の目に写る自然は、常に驚異と神秘に満ちたものであるのだ。

体操療法に関する一考案

上 原 敏 夫

1 体操療法の定義および仮説

体操療法は学習行動上に何らかの課題をもつ児童生徒を対象に、体操を基本にして任意に再構成された動きのパターンに仮りに名づけられたものである。

この体操療法は過去に報告された多面的言語治療専門家（注1）のモデル、すなわち、

○スピーチ セラピー オリент

○プレイ セラピー オリент

○スポーツ セラピー オリент

の三つのオリентと深いかわりをもつ。それぞれのオリентはそれぞれの仮説あるいは見通しをもつ。そして、三つとも言語治療へのアプローチとして提案された。体操療法もことばの障害を、学習行動上の課題としてとらえ、その治療対象に含める。

三つのオリентと体操療法のことなる点は、治療対象の範囲の広さと具体的なすすめ方、それに仮説である。一例を音声は出るが、それが話しことばとして役にたたない症例にとろう。このような症例では三つのオリентではアプローチがむづかしい。一方、体操を基本にして症例児の実態にあわせた動きのパターンを作ることはさほどむづかしいことではない。体操を構成する要素を一定の形式と号令にのせて、症例児の可能な範囲での動きを再構成する。この再構成のプロセスで言語系の覚醒と運動系の覚醒を同時にひきおこすことができ、結果としてこの症例児ならことばとして役立つ音声を発展させ得ると期待できる。

このように体操療法の仮説はことばと動きの両系を援用することによって学習行動上の課題をもつ児童生徒の指導に役立つという仮説をもつ。

2 仮説の検証

体操療法の仮説を検証する方法のひとつとして追跡調査がある。これには当然ながら長い年月が必要である。はじめて日の浅い体操療法は追跡調査をするほど十分な症例はない。いずれ追跡調査をするとしても、現在できることは、症例の実践を積みかさねることである。

実践の積みかさねは一応の論理構成ができた

しても、試行錯誤の段階をいきつもどりつしている、のが実状である。この実状から抜け出るには、ケースネスといわれるように、一応の仮説を前提に展開された症例報告を提示することでもある。

実践のための一応の論理構成を、運動療法（註2）から部分的に援用できる。それは次のようなことである。第一に必要な効果的な安全な受け入れやすい任意に再構成された動きのパターンにおける力と持久力を発達させることである。第二は再構成された動きのパターンを知ること、ならびに言葉をともなった随意反応を発達させることである。

動きのパターンにおける力と持久力を中軸にタイミング、バランスなどを数量化し、それとのかねあい言葉をともなった随意反応を記録する。原則として記録はビデオテープによる。

※記録の一例 a

事項	症例	①	②	③	④	⑤
持 久 力		3	2	4	1	0
力		2	1	0	1	1
安 定 性		0	1	2	4	1
タイミグ		3	2	2	3	1
リ ズ ム		2	2	4	1	1
反 射 神 経		0	0	0	1	1
正 確 さ		2	1	0	1	1
調 整 力		3	1	2	1	2
バ ラ ン ス		2	2	1	1	1
言葉をともな った随意反応 への意欲		0	0	0	0	0

粗 点 (17) (12) (15) (14) (9)

目標値 (50) (50) (50) (50) (50)

記録の一例 b

症例	事 項	候 群										
		程 度										
		5	4	3	2	1	0	-1	-2	-3	-4	-5
①	ことばなし	←————→										
②	言語障害	←————→										
③	自閉的傾向	←————→										
④	情緒障害	←————→										
⑤	心身系列反応	←————→										

※5段階評定法による。評定リストは省略する。

要するに、体操療法の仮説を検証するために間接的には症例報告、直接的にはその都度記録をとり、あらかじめ設定された手順に従って評定する。

3 再構成された動きのパターンに含まれる運動の種類と特質

体操療法はまず体を動かすことを前提にするので、事前に最少限2つのテスト——徒手筋力検査と機能的筋力テストはすませておきたい。前者は骨格筋に異常のあるなしを判別するのに役立つし、後者は筋力の減退または不能、不協調、代償、異常運動などを確認できる。

以上の二種の検査に特に異常がなければ、以下の運動の種類（註3）を再構成する。

- 1 個人スポーツ、対人体操、矯正体操、グループ別の非公式ゲームを楽しめる動き。
- 2 持久走にむかう動き。
- 3 幅とび、ゴムとびこし、縄とび、ボールけり、キャッチボール、線上前進、後進、横歩き、前まわり、後まわりの動き。
- 4 柔軟性—屈曲や捻転、回転など身体の各部分を自由に動かす能力を育てる動き。
- 5 スキル——正確にかつ最少限の時間を最少のエネルギーで身体を動かす能力を育てる動き。
- 6 平衡性を保つ訓練に役立つ動き。
- 7 筋肉の発達、筋繊維および骨格、筋力を強くする動き。
- 8 全身持久力、全身運動の持続能力を大きくする動き。
- 9 矯正運動、適応運動、調整力をスムーズにする動き。
- 10 神経・筋肉のリラクゼーションに役立つ動き。

以上のような10種の動きをパターン化しておく。この具体的な実践例は別紙にゆずる。体操療法のかなめはこの10種の動きをどう再構成しパターン化するかということである。

症例①のことはなしの場合に例をとると、上記の10種の動きの特質を再構成しパターン化したものが、必然的に前言語的感じをひきおこすようになる。前言語的感じはセラピストにはもちろんわからない。ここは仮定の話になる。

この前言語的感じをもつ段階で身体運動的なことば（アクションソングはその一例）を刻印する。そのくりかえしの成果として“ことばなし”の状態から一步前進できる。

症例⑤の心身系列反応の場合には、神経、筋肉

のリラクゼーションに役立つ動きを主軸に再構成された動きのパターンがでてくる。このパターンを通して、自律神経系の自然的な機能の回復が期待される。心身系列反応が自律神経系の不自然な機能の結果だと仮定すると、この不自然さを身体運動学的な原理をベースにして治療指導が可能である。

むすび

リハビリテーションの分野で運動療法がはたしている役割は大きい。他方、学校カウンセリングの分野で体操療法は大きな役割をはたしているとは言いがたい。学校カウンセリングという用語も含めて、体操療法という概念もなじみがうすい。しかしながら、体操療法のもつ本質から、学習カウンセリングの中核的役割をになうことは明らかである。

- 注1 上原敏夫「ことばの治療教育序説の試み」
障害児教育研究第1号 琉球大学教育学部 76.3.
- 2 「体育療法の考え方」 全国教育研究所
連盟春季研究発表大会報告資料 77.5.
- 3 新屋信子「幼児期の運動性を生かした体操療法」
前掲報告資料 77.5.

学級指導における資料の 効果的活用

山田中学校 新 里 紹次郎

1 はじめに

生徒指導の中心的役割を担って設けられた学級指導は、他の教育活動を通して行なわれる生徒指導を補充、深化、統合する機能をもつものとして、その教育的意義は重視されながらも、現場においては、いろいろな実践上の課題をかかえ、必ずしも充実されているとはいえないようである。

学校ぎらい、登校拒否、非行など多方面にわたる学校不適応現象が増大する中で、生徒指導の充実がさげばれ、とりわけ、学級指導が重視されてきている。

学級指導の充実をはかるには、適切な指導計画①整備はもとより、重要なことは、指導過程を工夫し、適切な資料を選択して活用することが考えられる。

2 学級指導における資料

学級指導は、生徒が自己実現をはかるために、教師が、なんらかの援助を行なうのであるが、その自己変革の過程で重要な役割をもつのが資料である・学級の実態に即して、題材やねらいが設定され、それに即した具体的資料を通して、問題の意識化、感動の誘発、心情の形成がはかられる。また、資料を通して、経験の拡大、深化がはかれるのである。

学級指導における資料は、生徒一人ひとりが、自らのあり方を考え、決定し、実行するのを援助する役割をもつものであり、それ故に、より具体的な資料が数多く必要であり、教師は、生徒の日常生活の中から、最も具体的な資料を発掘し、用意して活用していくことが大切である。

3 学級指導の指導過程と資料

学級指導の指導過程は、学級指導の特質から、適宜、適切に指導できる弾力性のあるものが必要である。例えば、題材によって、教師の指導性が前面に出てくるもの、生徒の主体性が重視されるものと一様でなく、そこから、展開においても、ある限られた型式だけでなく、多くの類型が考えられる。

ここでは、その基本型に基づいて、資料の位置づけと活用について考えてみたい。

学級指導の指導過程（基本型）

段 階		指 導 過 程
導 入	共 意 通 識 化	1 問題の存在に気づかせる。 ○具体的な問題を提示する。 ○生活の経験を話し合う。
		2 問題発生の原因や理由を考えさせる。 ○そのような問題がどうしておこったか。 ○なぜ、そのような困ったことになるか。
展 開	理 由 の 追 求 ・ の 解 決 ・ 対 処	3 具体的な解決策をつかませる。 ○では、どう、すればよいか。 (方法・技術の発見・練習)
		4 実践化をはかる。 ○具体的な手がかりをつくる。 ○自分にできる実践方法を話し合う。 ○学習したことを行動にうつす。

(1) 導入での資料

取りあげた問題に対して、興味、関心を高めるものや、問題に対して短時間に焦点化がなされるものを提示し、問題を確実に把握させるための資料が必要とされる。

(2) 展開での資料

<前段>

ここは、特に生徒の集団思考が重視されるため、教師の一方的な資料の提示はさけるべきであるが次の場合は、理解を深め、示唆をあたえるために資料の提示が考えられる。

- ① 問題の原因や理由を早く理解させ、焦点化しなければならない場合。
- ② 話し合いの学習活動を通して、問題が混乱し、方向づけが誤ったり、理解が不十分で活動が活発に行なわれない場合。
- ③ 問題の原因や理由を共通化し、確認しなければならない場合。

<後段>

生徒自身が、自分のあり方を身につけることが期待されることであるので、個別化をねらう資料が必要である。生徒個々が主体的にうけとめられる資料や、生徒個々の創意や改善が十分に導き出される資料が要求される。

(3) 終末での資料

効果的な意欲づけが期待されることであるので、固定化された資料より、生徒一人ひとり

の計画や意欲が、そのまま資料として生かされる。

4 資料活用上の分類

学級指導の授業展開においては、そのねらいに即し適宜、適切な資料が分類され、活用されることがのぞまれる。ここで、学級指導の資料の持つ要素を考えてみると、(1) 問題に気づかせる要素 (2) ものごとを正しく認識させる要素、(3) 自己を正しく知り、自己投影をさせる要素、(4) 問題対処の行為パターンを示す要素、(5) 実践意欲を高める要素などがあげられる。これらの要素をもとに、学級指導で活用される資料は、次のように分類することができよう。

(1) 問題に気づかせる資料

問題を正しく把握させ、意識化させて共通でしかも共同の解決すべき課題をみつけ出させる資料である。—諸調査・写真・図表・掛図・録音・新聞記事・TV・学級日誌—

(2) 生徒の個人資料

教師が、生徒一人ひとりをより深く、正しく理解したり、生徒自身が、より正しく自己理解したりする資料である。それには、心理的事実の資料・身体的事実の資料・社会的事実の資料がある。

—諸検査表・身体検査票・家庭調査表—

(3) 理解を深める資料

問題の原因や理由を深めながら、問題になる実態を理解させ、問題の改善、解決策が具体化される導きとなる資料であり、また、多様なあり方の中から、自分のあり方を考えさせ、決断させるための資料である。—問題点の修正事例改善の手順事例・実践計画作成の作業資料・成功、失敗例。

(4) 意欲づけの資料

意欲化や実践化をはかる資料である。

—実践計画表・教師の説話—

5 資料選択上の観点

学級指導の資料は、指導のねらいや指導過程のちがいに、その位置づけもかわってくるものであるがここに、資料選択上の留意点をあげると次のようである。

- (1) 個々の題材についてのねらいを明確にとらえたもので、生徒の問題意識をよびおこすことのできそうなもの。
- (2) 内容が、生徒に理解しやすく、身近な、具体的なもの。
- (3) 多様な解決のしかたを可能にするもの。

- (4) 一方的、一面的な見方、考え方の内容でないもの。
- (5) 量的に、一単位時間の指導にふさわしいもの。
- (6) 生徒の積極的参加によって、収集されたもの。

6 資料の活用例

題 材 効果的な学習法〈2年〉

ねらい

- これまでの学習計画を検討して、自分に合った学習計画を工夫させる。
- のぞましい学習習慣や態度を身に付けさせる。

展 開

〈導入〉

これまでの学習計画の概要と実施状況を発表させる。

- 資1 学習計画についての調査結果を提示（問題に気づかせる資料）

〈展開〉

学習計画の失敗・成功の原因について話し合わせる。

自分に合った計画を立案するとき、心がけることについてまとめさせる。

- 資2 計画作成上の留意点を提示（理解を深める資料）

〈終末〉

計画を修正させ、自分に合った計画をたてさせる。

- 資3 教師の賞賛・激励（意欲づけの資料）

主な参考文献

- | | | |
|------|------------|--------|
| 青木考頼 | 学級指導の指導過程 | 明治図書 |
| 宗像憲治 | 学級指導の展開 | 実務教育出版 |
| 明治図書 | 月刊誌 特別活動研究 | |

細胞の透過性

嘉数中学校 垣花正男

このたび私は、県立教育センターの長期研修生として、4月から9月までの6カ月間「植物細胞の原生質分離と浸透圧実験器による浸透作用」というテーマで研修する機会に恵まれた。学校現場では何かと毎日がせわしく、落ち着いて「ものを考える」とか「専門書を読む」とか「あるテーマをもって研究する」等の時間がなかったように思う。特に植物の生理については深く調べたこともなく、研修期間に入ってからいろいろな文献を集め基礎づくりのつもりで、できる限り多くの論文や専門書を読むようにした。

細胞の透過性について文献を調べていくと、そのはたらきが複雑で神秘的なものであり、いろいろな学説があつてまだ解明されていない部分が多いことに気づいた。そこで研修報告書に書くことのできなかった細胞の透過性について学んだものを2・3報告し、研究例にかえたい。

1 植物細胞とその膜

植物細胞には液胞膜、細胞膜、細胞壁等の膜がある。細胞壁には非常に多くの孔があり、それは顕微鏡でも見えない程小さいが、溶質分子に比べればはるかに大きい孔であるから、ほとんどの溶質は通り抜ける。しかし、液胞膜と細胞膜は選択的透過性、つまりそれがある物質は自由に透過させるが、他の物質は透過させないという性質がある。

細胞膜を電子顕微鏡で観察すると普通2層に見える。これは一般に2枚のタンパク質層とその間に2層の脂質分子がはさまれたように入っていると考えられている。(図-1)

タンパク質の長い分子は比較的折りたたまれたり、伸びたりすることができるので、細胞膜のタンパク層が弾力性をもっている原因になっている。また脂質の層があると考えられているのは、脂質を溶かす溶媒がたやすく膜を透過し、細胞内に入っていくことができるという観察に基づくものである。

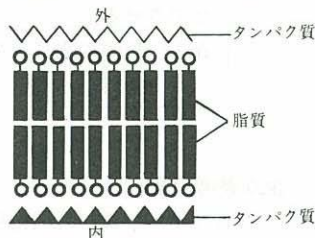


図-1 細胞膜の構造モデル

2 細胞の透過性

非電解質の細胞内への透過を見ると、脂質に溶解しやすい物質(例えば、グリセリン)ほど透過速度が大きい。このことは細胞膜が脂質からできているからである。細胞の物質透過速度を決定する第二の要因は、その分子の大きさである。すなわち、脂質に対する溶解性が等しければ、分子が小さいほど透過しやすい。

このことから細胞膜は脂質の様な膜ではなく、小さい分子ならばたとえ脂質の溶解度が小さいものであつても透入できるような、ふるいに似た構造のものと考えられる。(図-2)

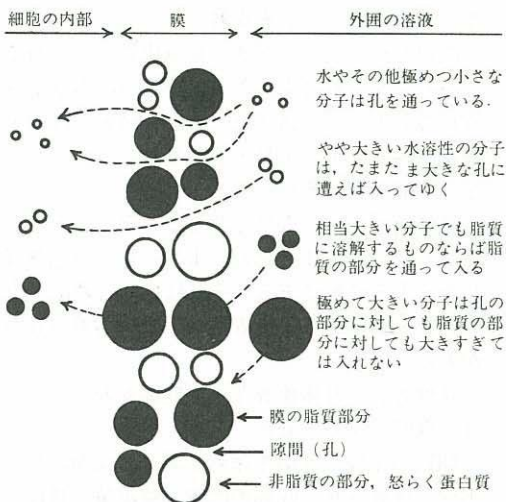


図-2 細胞膜の構造模式図

(Gerard:Unresting Cells,Harper&Bros;1949)

電解質の透過性を見ると、分子の大きさにあまり関係なく、陽イオンでは K^+ のような1価のものが2価の Ca^{++} 、 Mg^{++} よりも透過しやすく、陰イオンでも Cl^- 、 NO_3^- などが SO_4^{--} より透過しやすい。(分子の大きさは $Mg < Na < Ca^{++} < K^+ < Cl^-$ になっている)。

このイオンの透過性には生活活動エネルギーが関係しているといわれ、一定なものではなく常に変化していることは、細胞自体が膜の透過性を調節していると思われるが、今のところまだ明らかではない。

長期研修をふり返って

今帰仁中学校 与那城 哲 男

古都の面影を残す首里・龍潭のほりにある沖縄県教育センターで、10月から3月までの6ヵ月間研修を受ける機会に恵まれた。

学校現場は毎日多忙をきわめており、じっくり本を読んだり、一つのことを深く研究したりすることはなかなかできない。つい無気力になり、指導法もマンネリ化して安易に流れがちになる。それをなんとか克服したいと思って教育に関する新しい考えや理論を読んだり、同僚と話し合ったりするのだが、たいていは不消化に終り、焦燥感だけが残る。そんな中で研修の機会が与えられたことはたいへん幸運だった。

入所式の時、課長のお話の中に「時間と資料と指導者を提供するから自主的にテーマを設定し、計画し、研修して自己創造を図ってもらいたい」という趣旨のことがあり、決意を新たにしたものである。同時にこれから始まる研修生活を思い緊張と不安を抱いていた。

最初の1ヵ月はテーマの選定・限定・具体化の作業に終わってしまった。自分のテーマとその設定理由、研修計画などちゃんと持って来たつもりだが、文献をあさっているうちに考えがぐらついたり、欲張った研修計画を立てたりして、いざ文章化しようとすると思外に手間取った。テーマ検討会では、研修員各自のテーマとテーマ設定の理由、研修計画等についてそれぞれ発表があり、検討がなされた。その時の質疑応答、指導助言を通して研修の方向が明らかになった。それからは各自の計画に従って文献の探索と読破、資料収集、指導案作成、授業実践と研修生活も順調に進んだ。報告書のまとめの段階に入ると研修にも一段と熱がこもり、原稿用紙に向かってもんもんとした日が続いた。

一方、テーマについての研究以外に、楽しい催しもいろいろあった。所員総出の球技大会、大掃除、新年会等を通してみんなはいっそう親密になった。また、各研究室を回って、お茶を飲みながら主事の先生や研修員同志でとりとめもない世間話をするのも有益であった。卓球や囲碁に興じたり、龍潭のほりや、琉大周辺を散策したのも忘

れ難い。

特に私達センターに宿泊していた者にとって5時以後の生活は快適で充実していた。研修員が11人も宿泊していたので何かにつけて集まり、時にはアルコールを入れながら教育論や人生論、世間話と時の立つのも忘れて語り合った。

研修期間中、沖縄の教育界は例の大浜発言と日教組の「教育研究全国集会」のため大きく揺れ動いた。

大浜県教育委員長の「学力低下の最大の責任は現場教師にある」との趣旨の発言をめぐって替否の論議が百出した。沖縄の教育問題について県下の各層の人々がこれほど真剣に論議に加わり、関心を示したことはかつてなかったのではなかろうか。マスコミによって論議の様子を見た感じでは賛否いずれの側も沖縄の教育の現状を憂慮し、子供達に学力をつけたいという願いは一致しているように思えた。

「教育研究全国集会」は、1月26日から4日間県内の4市43会場で開かれた。教育現場の具体的な悩み、問題を持ち寄って研究し、その解決を目指して真剣な討議が行われ、教壇実践の成果が発表された。私は研究修会に参加して、教育荒廃の実態を聞いたり、その解決のための実践報告を強い感動をもって聞いた。

大浜発言と教研全国集会が、奇しくも時を同じくして私達の研修期間中にあったことは幸いだった。私達はその機会に教育について考え、自分を反省させられた。

今はまさに教師の資質が問われている時である。教育の根幹は教師に対する子供と父母の信頼にあるのだが、現在、父母国民は学校や教師に対して不信を抱く者が増えてきている。それは悲しいことである。不信を一掃するには教師自らが自分の教育実践を自覚的に受けとめ、自らの力量を高める以外にないと思う。

研修生活を振り返ってみて、ほんとうに有意義な日々であったと思う。それはセンターの家庭的な雰囲気と主事の先生方の温かい御指導、研修員相互の友愛によるものである。末尾になったが、所長はじめ主事の諸先生、庶務課の皆さん、研修員の皆さんに厚く感謝申し上げ、今後の御健闘を祈る次第である。

私の研修生活

宮島小学校 砂川直子

沖縄本島から飛行機で約50分、さとうきびにおおわれた平坦な島、宮古島。高い山もなく、大きな川もなく、目につくものといえばさとうきびと葉たばこの畑そして、それをとりまくようにしてはえているモクマオウの林。そういう自然環境の中で育った私は、これまで島の自然というものに対して、まったく関心を持たなかった。しかし、教育センターで過したこの一年、テーマである水溶液の性質の研究の合間に、沖縄本島の北部・南部・石垣島・西表島・久米島などの自然に接する機会に恵まれ、その中で生きている動物や植物についてのいろんな話を聞いたりその自然の雄大さにふれたりするにつれて、私の自然に対する関心が高まっていった。そして、これまで本でしか見たことのないいろんな動物や植物を実際に見たり採集したりする中で、その多くが実は私の島にもあることを知った時、これまで何の関心もよせなかった島の自然が非常に興味深いものになったことに不思議な感動をおぼえた。

ところで、復帰の翌年に教職についた私は教職経験5年になるが、これまでの教育センターのイメージ（ベテラン教師の研修の場）から、現場経験が少なく地域での研究活動の経験もほとんどない新米教師が教育センターの長期研修を受けることには、かなり抵抗があった。しかし、研修が終ろうとしている今この一年の研修生活をふり返してみると、未熟であるということからくる最初の頃の迷いやつまづきも、主事の先生方の適切なアドバイスや研修員仲間の温かい励ましでどうにか切りぬけることができたし、それ以後の研究や授業実践においても、心配していた程のつまづきはなかったように思う。むしろ、若いうちに一年という長期研修の機会を得て、これからの研究の方向性を見つけることができたことは、私にとって大きな収穫であった。また、女教師と研修という立場からこの一年の研修をふり返ってみた時、これからの長い教員生活の中で家庭と教職を両立させることができるように出産・育児のハンディのない若いうちに長期研修の機会を得ることができたことは、たいへん恵まれていたことだと思う。

この研修期間中は、五階の宿泊施設を利用させ

てもらった。おかげで研修期間中は経済的にも楽しかったし、5時以後の余暇を利用して卓球もうまくなった。そして現場ではなかなかできないピアノの練習もたっぷりできた。

また、この研修期間中沖縄各地から集まってきた小学校の先生やふだんは知り合うチャンスのない中学や高校の先生方と知り合うことができ、いろんなことを学ぶことができた。これからも、この出会いを大切にしていきたいと思う。

昭和52年度長期研修員と研究テーマ

長期研修は前期、後期の各6ヶ月間及び一年間、センターの研究主事の助言を受けながら、各自テーマを研究することになっている。

前期（昭和52年4月～昭和52年9月）

氏 名	所 属 校
知 花 江 美	嘉手納町立嘉手納小学校
仲 地 末 子	那覇市立松川小学校
末 吉 武 松	読谷村立渡慶次小学校
小 松 澄 子	玉城村立船越小学校
徳 嶺 正 治	上野村立上野小学校
吉 田 末 子	宜野湾市立大山小学校
山 城 初 子	沖縄県立沖縄盲学校
渡真利 章 良	平良市立池間小学校
平 良 永 信	知念村立久高小学校
仲 川 松 江	佐敷村立佐敷中学校
仲 座 徹 男	豊見城村立豊見城中学校
新 垣 誠 毅	那覇市立安岡中学校
宮 本 春 正	沖縄県立コザ高等学校
山 川 宗 秀	沖縄県立浦添高等学校
田 中 正 三	沖縄県立南部工業高等学校
仲 嶺 勝 子	恩納村立仲泊中学校
金 城 盛 栄	那覇市立上山中学校
垣 花 正 男	宜野湾市立嘉数中学校
玉 城 松 次	今帰仁村立古宇利中学校
宮 良 全 修	石垣市立石垣第二中学校
山 城 豊 志	佐敷村立佐敷中学校
与 儀 玲 子	沖縄県立北谷高等学校

研 究 テ ー マ

主体的な読みを育てるための「文学教材の読書指導」 —— 主として教材化について ——
五年生の農業学習における教材の精選と地域教材の位置づけ
数学的な考え方を育てる指導 —— 分数の指導を通して ——
算数におけるひとりひとりを伸ばす学習指導の試み —— 教授工学的手法による割合の指導をととして ——
学習要素の構造化とその指導過程の究明 —— 整数の乗法・除法について ——
道德の時間における基本発問の設定と子どもの応答の生かし方
重度・重複障害児の発達課題に対応した教育実践をはかるためにどのような児童理解がなされなければならないか
教授＝学習過程のシステム化に関する研究 —— 小学校理科の教材を中心として ——
校務分掌の運営
古典の単元構成と展開 —— 中学校第3学年の古典単元を中心に ——
地理的分野における「身近な地域」の学習をどうすすめるか
英語科における学習指導のシステム化 「古典」指導の改善に関する考察 —— 高校2年「古典1乙（古文）」の単元構成と展開 ——
日本史学習における沖縄史の位置づけとその観点 本校におけるカウンセリング実践のための一考察 —— 学校カウンセリングの概念の把握と本校のアンケート調査結果から ——
熱の概念と熱量の測定
化学変化とその規則性
植物細胞の原形質分離と浸透圧実験器による浸透作用
リュウキュウマツ群落の遷移
日なたと日かげの葉の形態変化と光合成量
地質構造教材のモデル化
琉球石灰岩中の造礁サンゴ化石

後期（昭和52年10月～昭和53年3月）

氏 名	所 属 校	研 究 テ ー マ
玉 城 俊 子	西原村立坂田小学校	主体的な表現力を高めるための低学年における作文指導 —— 主として課題発見の指導と教材提示の仕方について ——
沖 山 とみ子	那覇市立真和志小学校	書きことばによる表現の指導 —— 「正確さ」「わかりやすさ」を求めて ——
金 城 武 夫	具志川市立川崎小学校	主体的に学習する子どもをどう育てるか —— 社会科の予習的課題を中心として ——
高江洲 誠	平良市立平良第一小学校	第4学年における計算法則の指導 —— 学習指導のシステム化を通して ——
喜屋原 貞 雄	宜野湾市立普天間第二小学校	小学校校務分掌組織について
与那城 哲 男	今帰仁村立今帰仁中学校	書写の効率的な指導をどう進めるか —— 毛筆書写の指導過程を中心に ——
大 城 正 治	名護市立久志中学校	社会科歴史的分野の授業の組織化に関する研究 —— 授業過程における課題設定に関する研究を中心として ——
大 城 邦 光	東風平村立東風平中学校	日本史における地域教材の取り扱いに関する研究 —— 明治維新时期における沖縄を中心として ——
仲 本 光 夫	那覇市立真和志中学校	正の数・負の数の指導 —— 教授工学的手法による授業のシステム化を通して ——
新 里 紹次郎	恩納村立山田中学校	学級指導における学業生活に関する指導 —— 資料の効果的活用 ——
与 座 忠 志	佐敷村立佐敷中学校	中学校特殊学級（軽度児）を対象とした「整数の計算指導」のプログラム化
山 城 ヨシ子	具志川市立具志川中学校	学級担任の行う教育相談 —— 心のふれあいを深める個別指導 ——
徳 村 政 福	与那原町立与那原中学校	学校における教育相談のあり方の一考察
与古田 栄 雄	平良市立北中学校	教育相談的配慮を生かした生徒指導の一考察
大 城 春 子	大里村立大里南小学校	「食塩水」の素材研究
大 城 初 久	国頭村立辺土名小学校	郷土の地質資料の教材化 —— 辺土名周辺の地域を中心として ——
大 城 憲 助	玉城村立船越小学校	電磁石教材研究 —— 電磁石教材を興味深く学習させるために ——
宜志富 正 子	玉城村立船越小学校	「じやがいも」の素材研究
宮 城 正 子	那覇市立真和志小学校	星座学習について
大 泊 孝	竹富町立波照間小学校	雑草の素材研究
池 原 直 樹	沖縄県立宜野座高等学校	生態教材の基礎研究 —— リュウキュウマツを素材として ——
幸 地 貞 子	沖縄県立浦添高等学校	化学反応について —— 乱雑さと化学平衡 ——
佐渡山 安 治	沖縄県立浦添高等学校	主体的学習を旨とした指導法の一方策 —— 一斉授業のなかにプログラム学習を取り入れた学習形態を考える ——

一年間研修生（昭和52年4月～昭和53年3月）

砂 川 直 子	平良市立宮島小学校
仲 村 弥 一	名護市立羽地小学校
新 垣 力	南風原小学校
比 嘉 岳 雄	沖縄市立高原小学校

水溶液の性質の素材研究

水草の研究

てこのはたらき

「重さ」の概念の指導について

昭和52年度全国教育研究所 連盟教育相談・心身障害児 教育研究協議会をおえて

はじめに

この研究協議会の最初の企画準備のうちあわせ会が昭和51年11月19日国立教育研究所で催された。その席上で異口同音に次のような発言がなされた。すなわち沖縄県の会場が地理的に遠すぎて、協議会が成立するほどの関係者が出席するかどうかと。

だが、これもふたをあけてみると取り越し苦労でしかなかった。昭和49年度の愛知での協議会ほどの規模ではないが、北海道ブロックを除いて、全地域から関係者の出席があり盛会であった。関係各機関ならびに各位に感謝の意を表したい。

研究協議会の概要

開催日時：昭和52年11月8・9・10日。

開催場所：沖縄県立教育センター

参加人数：約70人（県内を含む）

協議主題：教育相談のあり方と心障児教育のすすめ方——教育相談・心障児教育の現状に関する課題を標題との関係において研究協議をおこなう——

この主題を受けて、協議会のプログラムは、講演・分科会・部会を主軸に作成された。

講演は、今回の研究協議会でも直接にあるいは間接にオーガナイザーの役割をもって下さった。東京都立教育研究所相談部長 小泉英二氏による「教育センター相談部門の今後の方向」という演題でおこなわれた。

分科会はA分科C登校拒否・自閉症・緘黙・非行等）、B分科（重複障害児の就学問題等）、C分科（学校教育相談等）の3分科にわかれて研究討議をおこなった。

A分科では「友人に対する恐れから登校に困難のあった女子高校との面接—箱庭を中心にして—」安村重己氏（大阪市教育研究所）・「遊戯治療における治療者の内的体験過程に関する一考察」西田拓氏（福岡市立教育研究所）・「自己実現の障害となったまぎらわしい人間関係」梅原秀之氏（青森県教育センター）のような三つのテーマを中心に熱心な討議がなされた。

B分科では「沖縄における障害児教育の現況」新屋敷秀樹氏（沖縄教育センター）・「心身障害

児教育に関する研究1——交流教育についての実態と問題点——」谷口正己氏（神戸市立教育研究所）・「障害児の就学に関する問題」木村賢一・松本嘉一氏（大阪府科学教育センター）のテーマを中心にして提案がなされた。なお、神戸市の谷口正己氏は、今回の研究討議会の企画委員をも兼ねておられた。

C分科では「情緒にかかわる問題行動を示す子どもに関する研究」深沢巖（山梨県教育センター）「教育相談のシステム化に関する研究」梅村俱久氏（岐阜県教育センター）・「学校教育相談に関する基礎的研究」荻部良吉氏（新潟県立教育センター）のような3つの提案をめぐって討議がすすめられた。

今回の研究協議会への希望テーマを二つの部会、すなわち、教育相談部会と心障児部会、で協議された。

次回研究協議会に対する期待：「登校拒否」「学校における教育相談をどう育てるか」を中心テーマに論議を深めたいとするのが相談部会の意向であった。一方、「養護学校への就学義務化へむけてどう具体的にとりくむか」を主要テーマに、各都道府県の特異なニーズに焦点をあわせていくようにする。というのが心障児教育部会の要約であった。

結 語

教育相談と心身障害児教育を並立した研究協議会は今回が最初の試みであった。それだけに企画、予備調査、実施要項の作成などについての検討を通して、この種の研究協議会の長所を最大限にいかすことが強調された。

ところで、今回の協議会では事前にとくに関東ブロック、開催当日は九州ブロック、そして終始国立教育研究所にお世話いただいたことを付記する。

（上 原 敏 夫 記）

主な図書資料紹介

(昭和52年4月～昭和53年3月)

沖縄の戦後教育史(沖縄県教育委員会編)
垣内松三著作集第1巻～第9巻(垣内松三著)光村図書
講座国語史第1巻国語史総論(村村明編)大修館書店
講座国語史第2巻音韻史・文字史(中田祝夫著)大修館書店
講座国語史第3巻語彙史(阪倉篤義編)大修館書店
講座国語史第5巻敬語史(辻村敏樹編)大修館書店
講座国語史第6巻文体史・言語生活史(佐藤幸代治編)大修館書店
講座情報社会科学1巻～17巻(水谷千尋)学習研究社
新地学教育講座1～16(地学団体研究会「新地学教育講座」編)東海大学出版会
天皇制と民家(後藤靖編)東京大学出版会
数学教育学(ストリヤール著)明治図書
数学における文法(ダースト著)明治図書
算数授業細案〈総論1・2年編〉(庁桐重男著)明治図書
自主学習を伸ばす算数ノート指導(細呂木見良著)明治図書
算数科学び方学習の指導(若林一男著)明治図書
個を生かす算数の授業(山中優著)明治図書
理科実験大事典〈化学編〉(株式会社全教図著編)東洋館出版社
物理化学〈上・下〉(G・M・パーロー著)東京化学同人
新物理学シリーズ1 物理学の構成(押田勇雄著)培風館
" 2 電磁気学(平川浩正著) "
" 3 振動論(戸田盛和著) "
" 4 量子力学(山内恭彦著) "
" 5 物理学史1(広重徹著) "
" 6 物理学史2(") "
" 7 磁性(金森順次郎著) "
スピンはめぐる(朝永振一郎著)中央公論社
学校経営の課題と解明1～3(三枝源一郎著)教育出版社
教育行政の核心1, 2(伊藤和衛著)文教書院
教育法規の活かし方(下村哲夫著)明治図書

生活指導の基礎と実際(坂本昇一著)文教書院
臨床心理学実習(倉石精一編)誠信書房
講座4生徒指導の争点(坂本昇一著)教育開発研究所
精神遅滞と言語障害(H・S・リリホワイト著)黎明書房
グループ・エンカウンター入門(R・シロカ編)誠信書房
続感受性訓練(関係夫著)誠信書房
環境測定法Ⅲ(渡辺裕著)共立出版社
動物プランクトン生態研究法(大森信著)共立出版社
動物群集研究法Ⅰ(木元新著作) 共立出版社
動物の行動研究法(奥井一満著) "
動物社会研究法(坂上昭一著) "
環境測定法Ⅵ(河田弘著) "
陸上植物群落の生産量測定法(木村充著) "
精神薄弱児の指導(宮崎直男著)日本文化科学社
障害児教育の課題1 教育相談(玉井収介著)福村出版
" 2 カリキュラム(松岡武著)福村出版
" 3 養護・訓練(松原隆三著)福村出版
" 4 教材・教具(小柳恭治著)福村出版
" 5 医療と教育(永峯博著)福村出版
" 6 早期教育(今井秀雄著)福村出版
" 7 学級・学校経営(藤原正人著)福村出版
" 8 重度・重複障害(大坪明德著)福村出版
特別活動研究双書1 巻集団活動の理解と方法(宇留田敏一著)明治図書
" 2 巻学級係り活動の指導方法(杉山正一著)明治図書
" 3 巻話し合い活動のつまづきと指導(大石勝男著)明治図書
" 4 巻個と集団を伸ばす「学級の時間」の指導(大石勝男著)明治図書
" 8 巻特別活動と自主性の育成(加藤隆勝著)明治図書
" 9 巻学業指導の基礎(堀久著)明治図書
その他各県教育センターの研究紀要・集録

昭和52年度 研究紀要，理科研修資料について

センター職員による調査研究は，調査研究紀要及び理科研修資料としてまとめられ，刊行されるものであり，52年度については次のとおりである。

調査研究紀要

紀要 教第89号	説明的文章の読解，読書，作文指導における	花 城 有 英
紀要 教第90号	話しことばによる表現の指導に関する研究	儀 間 朝 善
紀要 教第91号	古典入門期の学習指導に関する研究	山 端 清 英
紀要 教第92号	分数計算の学習指導システム化に関する実践的研究	新 城 英 将
紀要 教第93号	中学校数学科の授業のシステム化に関する研究（一次函数とグラフを中心に）	島 袋 勝 夫
紀要 教第94号	小学校社会科地域学習に関する研究	久 高 将 喜
紀要 教第95号	地域学習に関する研究（地理的，歴史的分野をとおして）	嘉 陽 正 幸
紀要 教第96号	沖縄県における中・高校生の性的発達と性行動の実態とその指導に関する研究	知 念 仁 幸
紀要 教第97号	養護学校における日常生活の実態とその指導に関する基礎調査	新屋敷 秀 樹
紀要 教第98号	体操療法	上 原 敏 夫
紀要 教第99号	高校生活に関する調査研究	田 村 良 祐
紀要 教第100号	高校英語科におけるプログラム学習の実践的研究	東 江 博
紀要 教第101号	登校拒否児に関する研究	福 山 逸 雄
紀要 教第102号	沖縄県における学校教育研究の変遷（琉球政府時代を中心として）	嘉 陽 正 幸

理科研修資料

理科教育資料35	小 学 校	理科の指導	昭和52年
理科教育資料36	中 学 校	理科の指導	昭和52年
理科教育資料37	〃	理科の実験観察指導（第2分野）	昭和52年
理科教育資料38	高等学校	〃（物理）	昭和52年
理科教育資料39	〃	〃（地学）	昭和52年
理科教育資料40	小 学 校	〃（2年生物，5年化学・地学）	昭和53年
理科教育資料41	〃	理科教育の研究（物理）	昭和53年
理科教育資料42	中 学 校	〃（化学）	昭和53年
理科教育資料43	高等学校	〃（化学，生物）	昭和53年
理科教育資料44	小中学校	〃（地学）	昭和53年

教育センター職員の動き

昭和52年は下記のとおり異動がありました。

転 入

庶務課主事	浦 崎 節 子	那覇教育事務所より
教科研究主事	新屋敷 秀 樹	美咲養護学校より
教科主事	仲 松 正 子	県立博物館より

転 出

北大東小中学校へ	奥 平 幸 子	庶務課主事
鏡ヶ丘養護学校兼城分校へ	嶺 井 幹 史	教科・研究主事
出納長事務局へ	花 城 光 子	教科・主事

回 覧							

第 7 号

発行年月日 昭和53年 3 月31日

編集・発行 沖縄県立教育センター

沖縄県那覇市首里当蔵1の5

電話 (0988) 34-6216

32-4042

〒 903